

# L'aile d'Howl

【ライル・ドウル・ホウルの翼(仏語)】

2010年1・2月合併号



ついに2010年に突入です！  
今年もみんながハンドボールを心から  
楽しめますように！

編集長のPCが壊れ発行が遅れて  
しまいました…申し訳ありません…



1

## 花巻クラブジュニアの親子対決！！



12月20日、2009年最後の活動日を迎えた花巻クラブジュニアは、練習納めということで親子交流試合を開催しました。普段はハンドボールに触れることのない親御さんたちも、ジャージ姿で多数ご参加いただきました。男女交互で親子対決を繰り返し、最後は総合得点で勝敗を競いました。親御さんの中には現役のプレーヤーの方もいれば、この日初めてハンドボールをやったという方もいましたが、皆さん「とても楽しかった！」との感想でした。お母さんチームも意外に(!)パス回しが上手で「練習すればマスターズ大会に出場できるんじゃないの？」という声も聞かれました。もしかすると「花クラマザーズ」がマスターズ大会に出る日もそう遠くないかも？子どもたちも、普段一緒にプレーすることのない親たちと試合をしてとても楽しかった様子でした。試合終了後は懇親会で、ますます親たちも絆を深めることができた親子交流試合でした！

2

## 日本リーグ盛岡大会！フレイオフをかけた熱戦の結果は・・・

今年も盛岡に日本リーグがやってきた！35回目のシーズンとなる今年、岩手を第2のホームとする大崎電気と対決したのは久々に国体を制した湧永製薬！1月16日、凍てつく寒さの中、会場となった盛岡市の岩手県営体育館は熱気に包まれていました！昨年は宮崎大輔選手の人気も手伝って会場は2200人の超満員となったため、今回はあまり観客が入らないのではないかと心配されましたが、そんな心配は無用だったようです。最終的には1300人の観客がコートサイドとアリーナを埋め尽くしました。(センター試験や私立高校受験と重ならなければもっと多くの観客が入ったものと思われそうです！)

さて、試合開始に先立ち、11時から県内少年団による前座試合が開催されました。時間の関係上、10分という短い時間でのゲームとなりましたが、コートサイドから見つめる中高校生の応援もあり、小学生たちも普段とは違う会場の雰囲気を楽しみながら試合に臨みました。高校生のお兄さんたちからの「ガッツポーズ」要求に応えられたかな？女子の試合は花巻クラブジュニアがリトルハンドに勝ちました。男子は初戦の矢巾フェニックス戦でエンジンのかからなかった花巻クラブジュニアがようやく2試合目でリトルハンドに勝利し、どのチームも1勝1敗でした。なお、今回の前座試合のレフェリーを急遽務めてくれたヤングレフェリーの谷藤航・佐々木太一ペア、ありがとうございました！



(c) JAPAN HANDBALL LEAGUE



その後ウォーミングアップを経て 14 時からついにスローオフ！岩本監督のもと新しい布陣で試合に臨む大崎電気は、レフトウイング小澤選手の速攻などで序盤勢いに乗りますが、対する湧永製薬もミドルシュートで反撃。東長濱選手が 7m スローをきっちり決め、9 対 8 と初めてリードします。しかし大崎電気は連続速攻などで逆転し、前半を 16 対 13 で折り返します。後半、浦和 GK が好セーブで湧永製薬の得点を抑えますが、大崎電気はセットプレーでのミスが出始め、再度 19 対 20 と湧永製薬に逆転を許してしまいます。

25 分過ぎには、ついに 25 対 25 の同点となり、プレーオフ進出をかけたラストスパートに入ります。大崎電気は、吉田 GK が必死のセーブで湧永製薬の攻撃を防ぎますが、27 分過ぎに大崎に退場者が出たすきに、東長濱選手の 7 m スロー、武藤選手のポストシュートが決まり、27 対 25 で湧永製薬が熱戦を制しました。素晴らしい試合を見せてくれた両チームには惜しめない拍手が送られました。

3

### 大西先生による指導者講習会！大好評でした☆

1 月 30 日～31 日の 2 日間、岩手県ハンドボール協会では筑波大学ハンドボール部前監督の大西武三先生をお招きし、紫波町体育館、花巻北高校などを会場に J 級指導者講習会を開催しました。日本ハンドボール協会公認の J 級指導員資格（ジュニア指導者）を取得することを目的として、県内の少年団の指導スタッフを主な対象として開催されたこの講習会ですが、指導者はもちろんのこと、モデルとなった参加メンバーにとっても非常に楽しく、また勉強になった大変貴重な機会でありました！



初日は紫波町体育館にて、少年団の子どもたちを相手に講習会を開始。大西先生の指導はまずイメージを作るところから始まります。クロアチアの名センターであるイバノ・バリッチ選手やジャクソン・リシャールソン選手（フランス）のディフェンスなど、素晴らしいプレーを編集したビデオを子どもたちに見せ、「さあ、みんなでこれらのプレーを真似してみよう！」と促します。いろいろなボールハンドリングでアップしたあと、子どもたちはバリッチ選手が見せたアンダースローの倒れこみステップシュートや回転フェイントなどを練習しました。また、後半にはデンマークの女子チームが試合で使っているフォーメーションのビデオを見せ、それを最後のゲームで出来るよう練習しました。子どもたちの中には、ビデオを見ながら「あ、頭いい！」と早速フォーメーションの効果を理解している子もいました！素晴らしい！普段の練習ではや

らないような色々なプレーを練習し、最後にそれらを実際に試合でやってみて、あっという間に 3 時間ほどの講習会が終了しました。普段の練習では飽きてしまう子も、最後まで楽しんでやっていたようです。

その後は花巻市の台温泉に会場を移し、指導者たちは大西先生のお話を聞きながら懇親を深めました。編集長が指導者の立場で印象に残ったことは、大西先生が「やってみせ 言って聞かせて させて見せ ほめてやらねば 人は動かじ」という山本五十六の格言に従うようにご指導されていること。プレーをやってみせる、もしくは映像で見せてイメージを作らせる。子どもたちは試合をやりたいのだから、まずやらせてみて、足りない部分を練習すればよい。話を聞けば確かにそのとおりなのですが、普段の練習で実際にやられていないことがたくさんあり、目からウロコが取れる思いでした。日本の部活動なども「まずは練習しないと試合ができない」という考えで、気が付けば「練習のための練習」になってしまう、いわゆる「積み上げ式」練習になりがちですが、まず試合をやってみて、出来ない部分を練習していく「減算式」練習を大西先生は大事にされており、自分たちも指導方式について改めて考えることが出来ました。また、「指導者が子どもたちの可能性をつぶさないこと」、つまり指導者が練習の中で勝手にプレーの限界を決めない、ということを再認識する良い機会になりました。



L' aile d' Howl (ライル・ドウル)  
2010 年 1・2 月合併号  
2010 年 2 月 25 日 発行  
発行：花巻市ハンドボール協会  
Special thanks to: 日本リーグ HP